第１章　計画策定の目的

１．保存活用計画策定の目的

岸和田城庭園（八陣の庭）は、大阪府史跡岸和田城跡内に位置する。昭和 28（1953）年に現代庭園作庭の第一人者であり、独創的な庭園を数多く残した重森三玲によって設計、施工された枯山水庭園である。岸和田城という近世城郭跡と現代庭園が組み合わされるといった非常に珍しい環境下にあり、この庭園が完成した翌年の昭和 29（1954）年に、岸和田城天守閣が再建されたが、岸和田城庭園（八陣の庭）（以下、本文中では「八陣の庭」という）は、天守閣や更に上空からの眺望を意識した設計となっている。

本市では、八陣の庭と大阪府指定史跡岸和田城跡との調和を図りながら、本庭園が有する価値を明確にし、後世へ継承するための保存と活用の基本的な方向性を示すため、また、城下町岸和田のもつ歴史、文化をあわせて後世へ伝え、郷土への愛着を育めるようにするため、岸和田城庭園（八陣の庭）保存活用計画を策定するものである。

［図 1-1］　岸和田市位置図および岸和田城周辺地図（scale：約 1/10000）

２．保存活用計画策定委員会の設置・経過

本計画の策定は、岸和田市教育委員会生涯学習部郷土文化室を事務局とする。検討にあたっては、岸和田市文化財保護審議会分科会として学識経験者からなる「岸和田城庭園（八陣の庭）保存活用計画策定委員会」を設置し、意見を受けるとともに、文化庁文化財部記念物課ならびに大阪府教育庁文化財保護課の指導助言を得た。

また、本計画の策定は、「岸和田城庭園（八陣の庭）史跡等保存活用計画策定事業」として、国宝重要文化財等保存整備費補助金の交付を受け実施した。

（１）岸和田城庭園（八陣の庭）保存活用計画策定委員会の組織

○岸和田城庭園（八陣の庭）保存活用計画策定委員　（敬称略）

井藤　徹	考古学	岸和田市文化財保護審議会会長 日本民家集落博物館館長
内田　和伸	造園	独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所遺跡整備研究室長
岡田　光代	近世文書	岸和田市文化財保護審議会委員 大阪府立大学大学院准教授
中西　裕樹	城郭	高槻市立しろあと歴史館館長兼今城塚古代歴史館長
福原　成雄	庭園	大阪芸術大学芸術学部建築学科教授

○アドバイザー

文化庁文化財部記念物課・大阪府教育庁文化財保護課

○事務局

岸和田市教育委員会生涯学習部郷土文化室

○庁内関係部署

岸和田市魅力創造部観光課・建設部水とみどり課

（２）審議等の経過・内容

○岸和田城庭園（八陣の庭）保存活用計画策定委員会

第１回	H28.8.12	岸和田城庭園（八陣の庭）の現状の確認・現在までの経緯の確認
第２回	H28.11.14	保存活用計画の目的の確認・指定地内の構造物の確認
第３回	H29.2.22	岸和田城庭園（八陣の庭）の構成要素の検討・保存上の課題の抽出
第４回	H29.5.18	保存管理の検討・方策の設定
第５回	H29.7.19	保存・管理に関する検討・文化庁現地視察
第６回	H29.10.25	全体の修正点確認、大綱、保存、活用、整備、運営、経過観察の検討
第７回	H30.1.30	全体の最終確認、４章、７章の定義付けの最終的確認

○岸和田城庭園（八陣の庭）保存活用計画策定に伴う　庁内調整会議

第１回	H28.5.25	岸和田城庭園（八陣の庭）保存活用計画策定の方向性・スケジュール
第２回	H28.9.27	保存活用計画策定の範囲・届出等事務処理に関する説明
第３回	H29.4.27	平成28年度保存活用計画策定委員会の経過報告・平成29年度の検討内容について
第４回	H29.9.28	岸和田城庭園（八陣の庭）の活用について

○その他

まちづくり市民懇話会	H28.8.24	岸和田城庭園（八陣の庭）の保存と活用について
岸和田城庭園（八陣の庭）保存活用計画策定に伴う３課調整会議	H28.10.24	岸和田城庭園（八陣の庭）の管理・運営に関して（３課＝郷土文化室、観光課、水とみどり課）
岸和田城庭園（八陣の庭）保存活用計画策定に伴う３課調整会議	H29.8.30	岸和田城庭園（八陣の庭）保存活用計画策定に伴う課題整理

第５回策定委員会

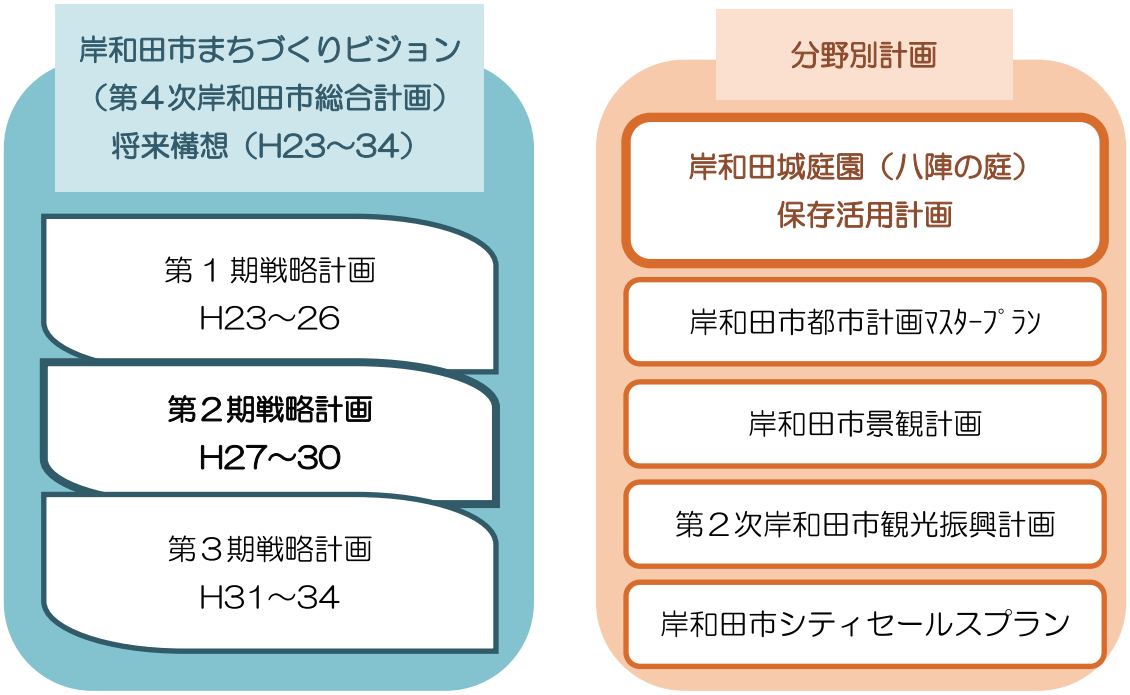
文化庁現地視察

３．他の計画との関係

（１）岸和田城庭園（八陣の庭）保存活用計画の位置づけ

本市のまちづくりは、最上位計画である「岸和田市まちづくりビジョン（第４次岸和田市総合計画）」に基づき、進められている〔図１－２〕。

岸和田城庭園（八陣の庭）保存活用計画も、関連するその他の計画とともに、岸和田市まちづくりビジョンの目標実現の一翼を担うものとして位置づけ、相互に整合性を保ちながらその進展を図る。



［図 1-2］　関連計画との関係図

（２）関連計画の概要

○岸和田市まちづくりビジョン（第４次岸和田市総合計画）（所管：企画調整部企画課）

将来構想では、平成 23 ～ 34（2011 ～ 2022）年度の実施期間を３期に分けて見直しを行う。岸和田城周辺を「歴史文化ゾーン」と位置づけ〔図１－３〕、目標が達成された姿を「郷土への愛着が育まれている」とし、現在実施中の第２期戦略計画では、目指す成果を「郷土の文化がしっかりと引き継がれている」としている。

○岸和田市都市計画マスタープラン【テーマ別まちづくり編】（所管：まちづくり推進部都市計画課）

平成 23 ～ 34（2011 ～ 2022）年度を実施期間とし「旧市街・歴史景観区」として、岸和田城周辺を景観核としている。

○岸和田市景観計画（所管：まちづくり推進部都市計画課）

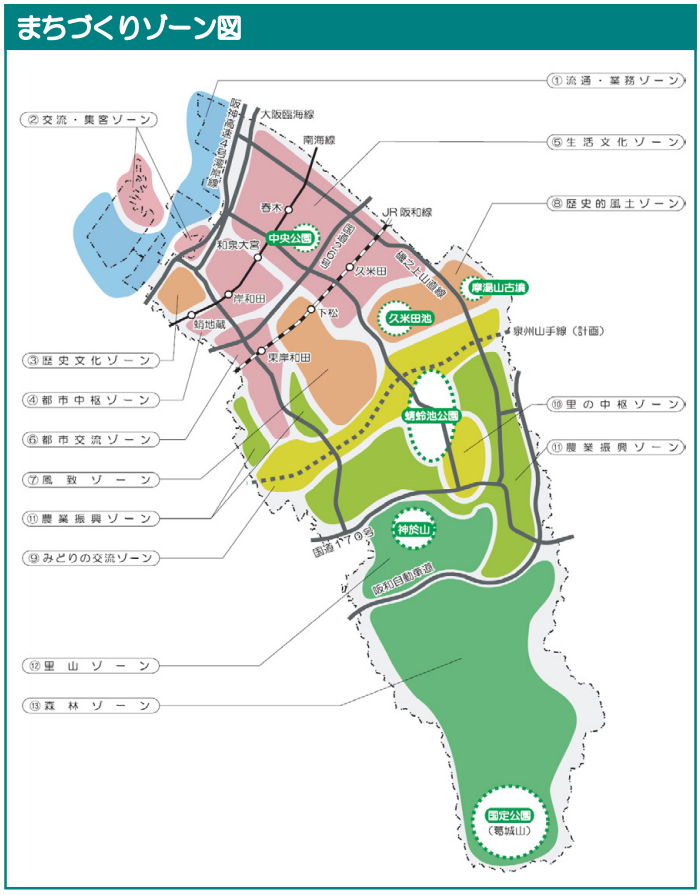
平成 22（2010）年 10 月策定。岸和田城周辺を「歴史・伝統保全地区」として、歴史的環境を保全、活用し、岸和田らしさを創出することを目標としている。

○第２次岸和田市観光振興計画（所管：魅力創造部観光課）

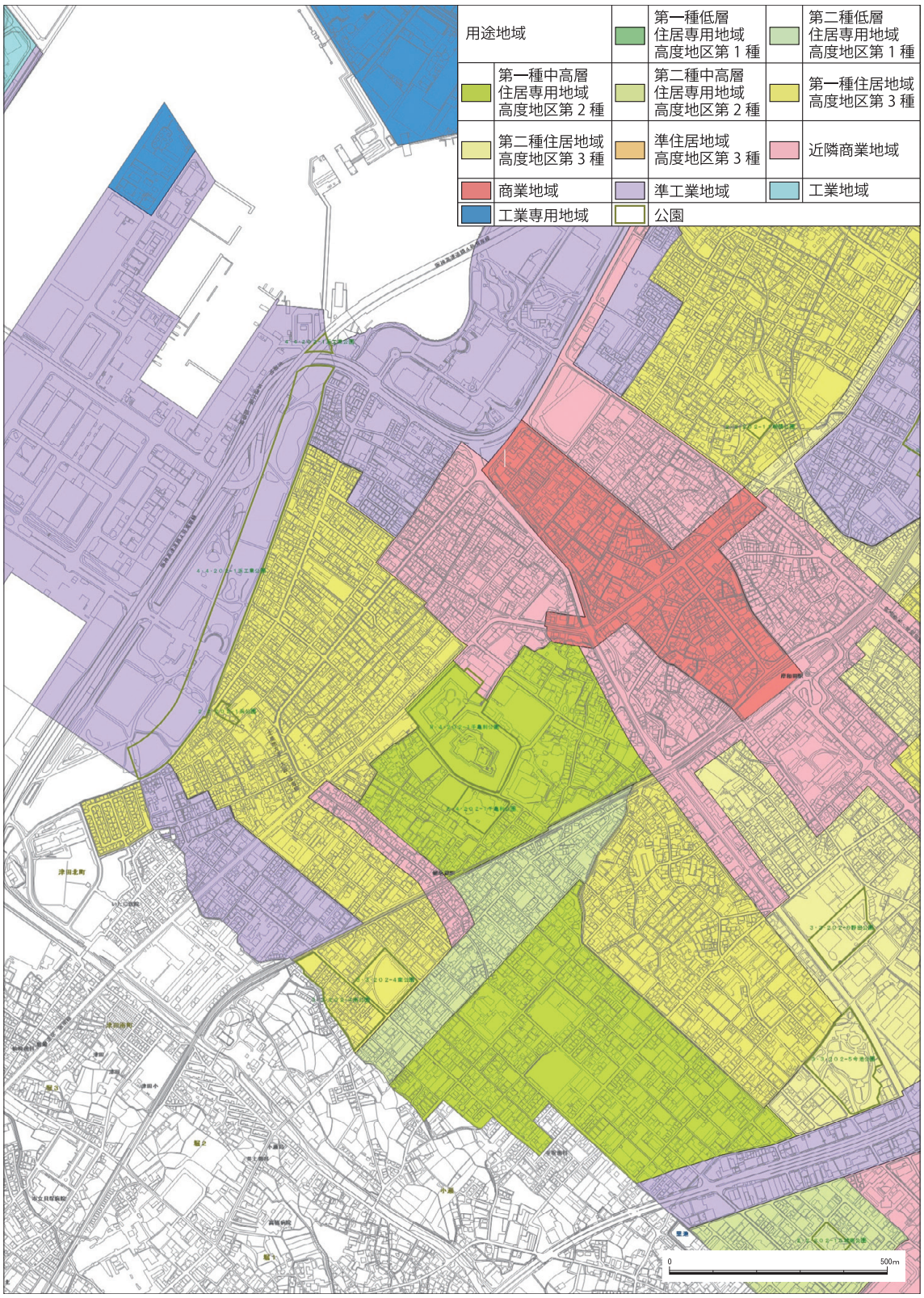
平成 29 ～ 35（2017 ～ 2023）年度を実施期間とし、ターゲット分類の中で、歴史のゆかり地巡りや全国の城郭見物が目的の人達を「歴史・お城好き層」として設定している。

○岸和田市シティセールスプラン（所管：市長公室広報広聴課）

平成 27 ～ 31（2015 ～ 2019）年度を実施期間とし「岸和田の資源や魅力」として「市民が誇る歴史資源」を挙げている。



［図 1-3］
まちづくりビジョン将来構想より



［図 1-4］　名勝指定地周辺都市計画図

４．計画の実施

本計画は、平成 30（2018）年４月１日から実施するものである。

第２章　名勝をとりまく環境

１．本市の自然的環境

（１）位置・地勢

八陣の庭が所在する岸和田市は、大阪府の南西部に位置する。市の面積は 72.68k ㎡を測り、南北約 17.3km、東西約 7.5km と南北に細長い形状を呈す。北西側の沿岸部は大阪湾に面し、北東側は忠岡町および和泉市、南西側は貝塚市と接し、南東側は和泉山脈の稜線を境として和歌山県紀の川市およびかつらぎ町と接している。

また、本市の地勢は、大きく山地、丘陵、台地および河岸段丘、平地の４つに分類することができ、それぞれが段差をもって段階的に降下している。府県境を東西に走行する和泉山脈の標高は、東部で 900m 前後と高く、西部で 100m 前後と低くなる。岸和田市域の和泉葛城山の標高は 858m を測る。山地の和歌山県側の急な傾斜面とは対照的に、大阪府側は緩やかな傾斜により標高を減じていく。また和泉山脈の北西側には、いわゆる前山である標高 296m の神於山が位置する。

本市を流れる主な河川は、東から牛滝川、春木川、津田川がある。牛滝川と津田川は、その源を和泉葛城山に発し、春木川はその源を神於山に発する。それぞれの河川は平行するように北西に流れ、大阪湾へと注ぐ。こうした河川やその支流により、山地や丘陵は開析が進み、樹枝状谷が発達している。

（２）気候

本市は降水日数が少なく、年平均降水量もおよそ 1,300 ㎜（岸和田市近隣のアメダス３地点の過去 10 ヵ年平均）と少なく、瀬戸内海式気候に属している。こうした気候とともに大きな河川もなく、河床も低いことから水利の便が悪く、古くから丘陵や台地及び河岸段丘に形成された樹枝状谷に数多くのため池が構築されている。なかでも、春木川が開析した谷を堰き止めて築造された久米田池（大阪府指定史跡・名勝、世界かんがい施設遺産［平成 26（2014）年 10 月登録］）は、広さ約 45.6ha、周囲約 2,650m、最大貯水量 157 万ｔを測る大阪府内最大の面積を有する灌漑用ため池として有名である。

２．指定地周辺の歴史的環境

八陣の庭は、大阪府指定史跡岸和田城跡に所在し、天守台が築かれた本丸の北側部分に位置している。岸和田城がいつ現在の位置に築かれたかは正確にはわからないが、14 世紀後半頃には前身となる居城あるいは土居が存在したと考えられる。天守台は、大阪湾に沿って形成された標高９ｍ前後を測る海岸段丘上におよそ４ｍの盛土を施し築造され、その前縁の一段下がった海側に二の丸を配置している。

岸和田城は、戦国時代に守護代松浦氏らが和泉国の中心城郭として整備し、永禄元（1558）年頃、三好一族の十河一存も入城した後、天正 13（1585）年に、豊臣秀吉が根来寺、紀州勢力との戦いに際して当城を拠点とした。

文献史料に「岸和田城」の名が認められるのは 16 世紀半ば以降のことである。近世城郭としての岸和田城は、天正 13（1587）年に小出秀政が城主として入城後、順次整備

されたと考えられている。五層の天守が慶長２（1597）年に完成した後、慶長７（1602）年頃から城下町を北東から南西に貫く紀州街道が整備される。小出氏３代の後、元和５（1619）年に松平康重が丹波国篠山より城主として入城し、城下の臨海部に防潮石垣を築くなど、城下町が形成された。

その後、寛永 17（1640）年に岡部宣勝が摂津国高槻より６万石で入封し、岡部氏が明治維新まで十三代続く。文政 10（1827）年には落雷により天守が焼失、その後、藩政中に再建されることはなかった。明治時代初め、伏見櫓を始め、岸和田城に関する建物はことごとく取り払われ、城内に当時から現存する建物はない。

３．本市の社会的環境

（１）人口・世帯

本市の人口は、196,871 人、世帯数は 86,801 世帯（いずれも平成 30（2018）年１月１日現在）で、人口は平成 14（2002）年の 201,500 人から減少傾向である。国勢調査によると０歳から 14 歳までの年少人口は、平成 17（2005）年には 15.9% であったが、平成 27（2015）年には 13.8% となっている。また、65 歳以上人口の割合は平成 17 年に 18.8%で、平成 27（2015）年には 25.8%となり少子高齢化が進行している。

（２）交通

市内には、鉄道がＪＲ阪和線と南海本線が北東から南西方向に走っており、幹線道路も鉄道に並行する形で国道 26 号線（第二阪和国道）がある。

市域の中央部に北東から南西に阪和自動車道路、海岸部においても同様に阪神高速４号湾岸線が走っている。八陣の庭へは、南海本線岸和田駅から徒歩 15 分、車では、阪神高速４号湾岸線岸和田南 IC より約 10 分でアクセスできる。

［図 2-1］　市内主要交通図

（３）観光

本市は岸和田城を中心として、自然と伝統に恵まれた城下町として発展してきた。そのため、市内には数多くの文化財が存在する。また岸和田の代名詞ともいえるだんじり祭など観光資源も多く存在する。

本市を訪れる観光客数は、平成 18（2006）年度から平成 22（2010）年度にかけては約 230 万人であったが、平成 23（2011）年度には急激に来訪者が増加し約 300 万人を超えている。これはＮＨＫの朝の連続テレビ小説において本市が舞台となったドラマが放映されたことが影響したと考えられる。しかし、平成 23 年度をピークに来訪者は減少傾向にあり平成 25（2013）年度には 300 万人を割り込んでしまうが、平成 27（2015）年度には再び 300 万人を超える。岸和田城周辺においては、年間約 18 万人の観光客数で定着している。

本市の主要な施設やイベントの来訪者数は以下に示す。

≪主要施設の観光客数≫（延べ人数）（概数）【観光課提供】　　（単位：千人）

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
年間の観光客数	2,276	2,289	2,337	2,307	3,044	3,004	2,889	2,893	3,094	2,993
主要な観光施設来訪者数	1,666	1,669	1,736	1,713	1,759	1,800	1,710	1,732	1,812	1,718
岸和田城	32	32	35	38	54	57	37	43	41	38
だんじり会館	35	35	31	32	58	56	37	36	36	32
五風荘	10	16	96	130	136	121	110	108	109	104
いよやかの郷	264	230	233	191	209	207	195	194	190	180
蜻蛉池公園	842	834	827	780	761	823	798	837	917	836
浪切ホール	484	522	514	543	542	537	532	513	518	528
主要なイベント来訪者数	610	620	590	580	521	581	491	495	480	419
だんじり祭	580	590	560	550	515	551	461	465	450	389
お城まつり	30	30	30	30	6	30	30	30	30	30
その他	0	0	11	14	765	623	688	666	801	856
愛彩ランド					547	539	577	583	712	746
観光交流センター							76	51	60	84
その他			11	14	217	84	35	32	30	25

（４）文化財

市内には、周知の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が約200か所存在し、海浜部から840ｍ余りの標高に位置する葛城山頂遺跡までと市域全域に分布している。遺跡の時代や種類も非常に豊富で、旧石器の散布地、縄文時代から中世にいたる各時代の集落、古墳、古代・中世寺院、中世・近世城郭、街道と多岐にわたっている。また、近代においては、地方財閥である寺田財閥の関連する企業が数多く存在し、都市への発展に大きく貢献した。さらに、第二次世界大戦時に大規模な空襲を受けなかったことから、近代建築物が比較的多く存在する。

岸和田城周辺における歴史的建造物としては、岸和田城本丸の南側にある五風荘がある。五風荘は、江戸後期岸和田藩主岡部氏の新御茶屋であった。その後、昭和２（1927）年に明治～昭和にかけて財閥として名をなした寺田家の所有となり、昭和４（1929）年から10年の歳月をかけて回遊式の庭園と邸宅・茶室などが造られている。五風荘は昭和初期を代表する和風の名建築であるが、近世以来の伝統に近代の新しい技術を導入した間取りや構造が充実しており、その手本としても貴重な建物である。平成４（1992）年に保存を目的として本市が取得し、翌５年から市民に開放された。平成10（1998）年に登録有形文化財とされたが、平成20（2008）年には市指定文化財となり、現在は指定管理者によって維持・管理などが行われ、飲食店として市民だけでなく本市を訪れた観光客に利用されている。

また、岸和田城本丸の北に位置する、自泉会館は、岸和田紡績株式会社（明治25（1892）年設立）社長寺田甚吉が、創始者である父寺田甚与茂の偉業を記念して昭和７（1932）年に「自泉館」として建てたものである。設計は渡辺節で、スパニッシュ様式を取り入れた建築である。もとは岸和田紡績株式会社の社交場として利用されていたが、昭和18

（1943）年に市に寄贈された。昭和 43（1968）年増築工事をし、昭和 57（1982）年復元工事を経て、現在の様相に至る。建物は登録有形文化財となっている。また指定管理者によって管理・運営され、ギャラリー、コンサートなど、文化・芸術活動の場として積極的に活用されている。

さらに、大正末期に建てられたマンサード長屋が、岸和田城本丸の南西に位置する。腰折れ式屋根で破風をハーフティンバーで飾り、洋風の屋根窓や出窓を設けた外観が大変特徴的である。４棟 14 戸の住宅群は各戸が煉瓦造の門を構え、前庭を設けて戸建て的な構成を見せている。マンサード長屋の名称は、腰折れ屋根を「マンサード形式」と解釈したためで、腰折れの切妻屋根自体は正しくはギャンブレル形式の屋根である。

現在、本市には国指定文化財 14 件、府指定文化財 14 件、市指定文化財 45 件、登録有形文化財４件の合計 77 件の文化財がある。

指定文化財略称　凡例

重文・・・・国指定重要文化財
天記・・・・国指定天然記念物
史跡・・・・国指定史跡

府規名・・・大阪府古文化紀念顕彰規定名勝
府規史名・・大阪府古文化紀念顕彰規定史跡・名勝
府有形・・・大阪府指定有形文化財
府天記・・・大阪府指定天然記念物
府無民・・・大阪府指定無形民俗文化財

府無民・・・・大阪府指定無形民俗文化財記録選択
府史跡・・・・大阪府指定史跡

市有形・・・・市指定有形文化財
市史跡・・・・市指定史跡
市天記・・・・市指定天然記念物
市無形・・・・市指定無形民俗文化財

登録有形・・・国登録有形文化財

≪国指定文化財≫　（指定日順）

	分野	種類	名称	指定日
1	重文	書跡	紙本墨書　楠家文書	明治38年4月4日
2	重文	書跡	紙本墨書　久米田寺文書	明治38年4月4日
3	重文	書跡	紙本墨書　大塔宮令旨	明治38年4月4日
4	重文	書跡	紙本墨書　北畠覚空書状	明治38年4月4日
5	重文	建造物	積川神社本殿　三間社流造正面千鳥破風付檜皮葺	大正3年4月17日
6	重文	工芸品	刀　無銘　伝一文字作	大正12年3月28日
7	天記	天然記念物	和泉葛城山ブナ林	大正12年3月7日
8	重文	建造物	兵主神社本殿　三間社流造正面軒唐破風付檜皮葺	大正13年4月15日
9	重文	絵画	絹本著色　星曼荼羅図	昭和24年2月18日
10	重文	絵画	絹本著色　安東蓮聖像	昭和30年6月22日
11	重文	絵画	絹本著色　仁王経曼荼羅図	昭和30年6月22日
12	史跡	史跡	摩湯山古墳	昭和31年5月15日
13	重文	建造物	大威徳寺多宝塔　三間多宝塔本瓦葺　附棟札2枚	昭和46年6月22日
14	史跡	名勝	岸和田城庭園（八陣の庭）	平成26年10月6日

≪大阪府指定文化財≫　（指定日順）

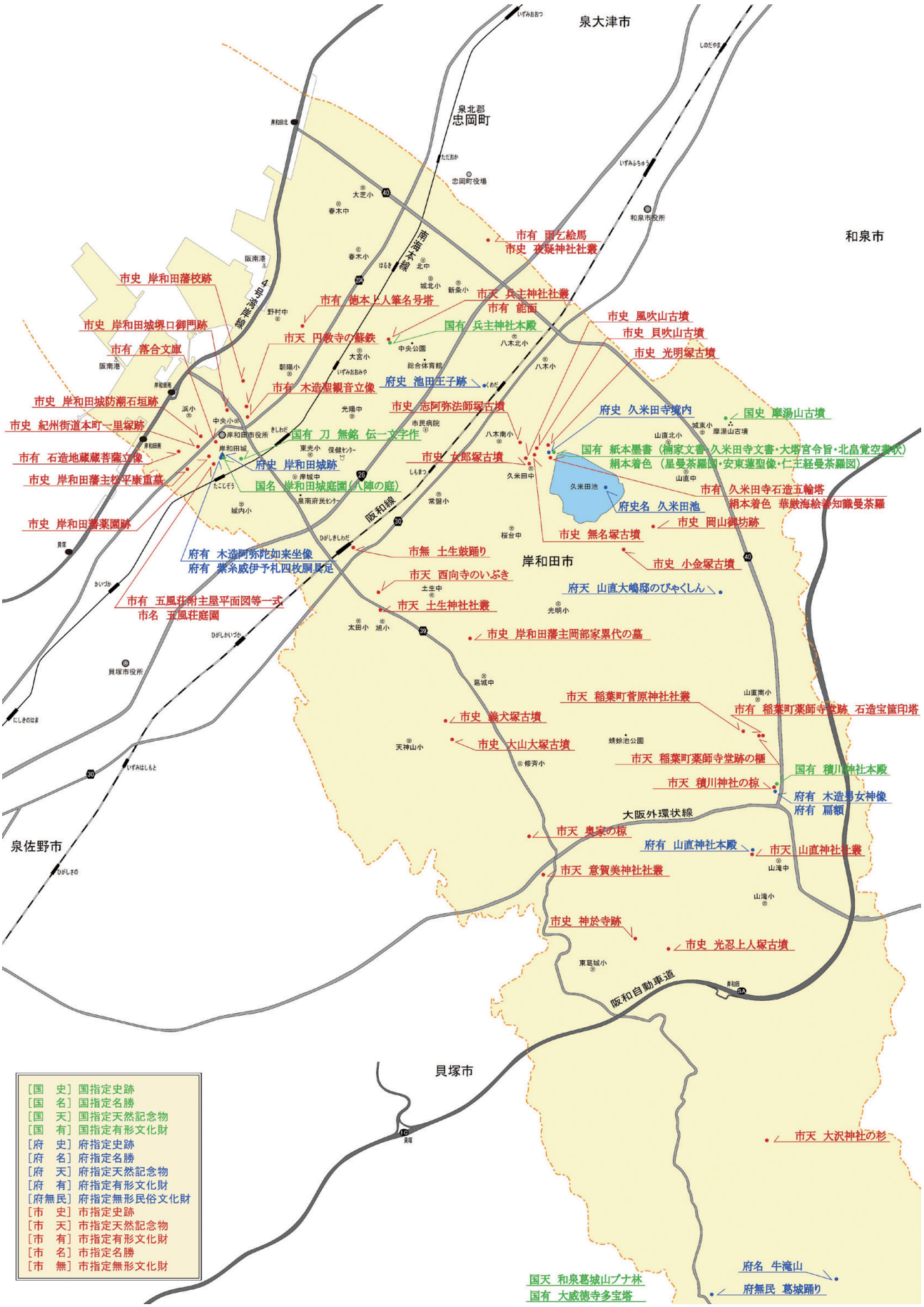
	分野	種類	名称	指定日
1	府規名	名勝	牛滝山	昭和13年5月11日
2	府規史名	史跡名勝	久米田池	昭和16年5月16日
3	府規名	史跡	池田王子跡	昭和22年4月9日
4	府有形	建造物	山直神社本殿	昭和40年3月30日
5	府天記	天然記念物	山直大嶋邸のびゃくしん	昭和45年2月20日
6	府有形	工芸品	積川神社　扁額	昭和45年12月7日
7	府有形	彫刻	木造　男女神像	昭和45年12月7日
8	府有形	彫刻	木造　阿弥陀如来坐像	昭和48年3月30日
9	府有形	彫刻	木造　不動明王坐像1躯及び光背	昭和48年3月30日
11	府無民	無形民俗文化財	葛城踊り	平成5年11月24日
12	府無民記	記録選択	葛城踊り	平成5年11月24日
10	府史跡	史跡	岸和田城跡	平成6年12月12日
13	府史跡	史跡	久米田寺境内	平成10年2月4日
14	府有形	工芸品	紫糸威伊予札四枚胴具足1具　附鎧櫃2合	平成12年2月8日

≪市指定文化財≫　（指定日順）

	分野	種類	名称	指定日
1	市有形	建造物	葛城山石宝殿 附玉垣	昭和31年8月
2	市有形	建造物	徳本上人筆名号塔 附玉垣	昭和31年8月
3	市有形	建造物	稲葉町薬師堂跡石造宝篋印塔	昭和31年8月
4	市有形	建造物	久米田寺石造五輪塔（3基）	昭和31年8月
5	市史跡	史跡	岸和田藩薬園跡	昭和31年8月
6	市史跡	史跡	岸和田城堺口御門跡	昭和31年8月
7	市史跡	史跡	紀州街道本町一里塚跡	昭和31年8月
8	市史跡	史跡	岸和田城防潮石垣跡	昭和31年8月
9	市史跡	史跡	岸和田藩校跡	昭和31年8月
10	市史跡	史跡	貝吹山古墳	昭和31年8月
11	市史跡	史跡	風吹山古墳	昭和31年8月
12	市史跡	史跡	女郎塚古墳	昭和31年8月
13	市史跡	史跡	無名塚古墳	昭和31年8月
14	市史跡	史跡	光明塚古墳	昭和31年8月
15	市史跡	史跡	志阿弥法師塚古墳	昭和31年8月
16	市史跡	史跡	神於寺跡	昭和31年8月
17	市史跡	史跡	岸和田藩主松平康重墓	昭和31年8月
18	市史跡	史跡	岡山御坊跡	昭和31年8月
19	市史跡	史跡	大山大塚古墳 附捕鳥部萬墓	昭和31年8月
20	市史跡	史跡	義犬塚古墳	昭和31年8月
21	市史跡	史跡	岸和田藩主岡部家累代の墓	昭和31年8月
22	市史跡	史跡	光忍上人塚古墳	昭和31年8月
23	市有形	彫刻	石造地蔵菩薩立像（正平17年在銘）	昭和31年8月
24	市有形	彫刻	木造聖観音立像	昭和31年8月
25	市天記	天然記念物	西向寺のいぶき	昭和32年4月
26	市天記	天然記念物	円教寺の蘇鉄	昭和34年4月
27	市有形	絵画	雨乞絵馬（津田雲渓筆）	昭和34年8月13日
28	市天記	天然記念物	奥家の椋	昭和41年3月22日
29	市天記	天然記念物	稲葉町薬師堂跡の榧	昭和41年3月22日
30	市天記	天然記念物	大沢神社の杉	昭和41年3月22日
31	市天記	天然記念物	積川神社の椋	昭和41年3月22日
32	市天記	天然記念物	意賀美神社社叢	昭和43年7月5日
33	市天記	天然記念物	兵主神社社叢	昭和49年4月27日
34	市天記	天然記念物	夜疑神社社叢	昭和49年4月27日
35	市天記	天然記念物	土生神社社叢	昭和49年4月27日
36	市天記	天然記念物	稲葉町菅原神社社叢	昭和49年4月27日
37	市天記	天然記念物	山直神社社叢	昭和49年4月27日
38	市史跡	史跡	小金塚古墳	昭和52年12月8日
39	市無形	無形文化財	土生鼓踊り	昭和64年1月1日
40	市有形	典籍	大阪府立岸和田高等学校所蔵『落合文庫』等和漢書コレクション 附大正～昭和期の書籍	平成19年11月30日
41	市有形	建造物	五風荘 附主屋平面図等一式	平成20年12月5日
42	市天記	名勝	五風荘庭園	平成20年12月5日
43	市有形	彫刻	木造十二神将立像	平成26年5月1日
44	市有形	彫刻	能面　附紙製面1面、面袋9枚、木箱1合および面袋献納記1通	平成27年6月1日
45	市有形	絵画	絹本著色　華厳海会善知識曼荼羅	平成28年5月1日

≪国登録文化財≫　（指定日順）

	分野	名称	登録日
1	登録有形	岸和田市立自泉会館	平成9年5月7日
2	登録有形	旧岸和田村尋常小学校舎	平成9年11月5日
3	登録有形	和田家住宅	平成14年8月21日
4	登録有形	旧和泉銀行本店	平成18年3月2日



［図 2-2］　指定文化財分布図